

1 水稲

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
ヒメビウンカ	—	やや多	・畦畔のすくい取り調査の結果、発生地点率は平年並、すくい取り虫数は平年よりやや多かった。(/±, +)
ツマグロ ヨコバイ	—	やや多	・畦畔のすくい取り調査の結果、発生地点率は平年より高く、すくい取り虫数は平年並であった。(/+, ±)

2 麦類

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
オオムギ 赤かび病	平年並	平年並	・作況調査ほ「シュンライ」(10月中旬播種, 3月20日現在)の開花期は5月4日頃と予測され, 平年(5月1日)よりやや遅いと予測される。(+/) ・向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(-/) ・開花期前後の降雨が発生に好適である。10月中旬播種大麦の開花期は5月上旬頃と予測され, 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)
コムギ 赤かび病	平年並	平年並	・作況調査ほ「シラネコムギ」(10月中旬播種, 3月20日現在)の開花期は5月17日頃と予測され, 平年(5月14日)よりやや遅いと予測される。(+/) ・向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(-/) ・開花期前後の降雨が発生に好適である。10月中旬播種小麦の開花期は5月中旬頃と予測され, 5月の降水量(3か月予報)はほぼ平年並と予報されている。(/±)

3 りんご

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
斑点落葉病	平年並	やや多	・作況調査ほにおける「ふじ」の発芽期は, 平年並である。(± /) ・前年の発生量が平年よりやや多かったことから, 伝染源量は平年よりやや多いと推測される。(/+) ・向こう1か月の平均気温は高く(/+), 降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)
リンゴハダニ	—	平年並	・3月の巡回調査の結果, 短果枝や芽基部の越冬卵数は平年並であったが, 分岐部では確認されなかった。(/-) ・向こう1か月の平均気温は高く(/+), 降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

4 なし

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
黒星病	やや早い	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ・作況調査ほにおける発芽期は平年に比べ「幸水」で1日、「豊水」で3日早い。(－～±/) ・前年の発生量が平年より少なかったことから、伝染源量は少ないと推測される。(/－) ・向こう1か月の平均気温は高く(/+), 降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

<発生予察情報で使用している用語について>

1 発生時期

過去 10 か年の平均を平年値として、その日数差によって5段階で評価しています。

	早い	←	平年値	→	遅い								
日数	～ -6	-5	-4	-3	-2	-1	+1	+2	+3	+4	+5	+6	～
評価	早い	やや早い			平年並			やや遅い			遅い		

2 発生量

過去 10 か年の平均を平年値(※)として、平年値を中心に 40%の度数の入る幅、その外側 20%の度数の入る幅、さらにその外側 10%の度数に入る幅の5段階で、本年の値がどの幅に該当するかによって評価します。
※ 野菜、花きについては過去5か年の平均としています。

	少ない	←	平年値	→	多い	
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

このように発生量は平年値(過去 10 か年の平均値)との相対的な比較で評価していますので、平年値が小さい(=毎年の発生量が少ない)病害虫では、発生量が「やや多」や「多」となっても、見かけ上の発生は多く感じられないことがあります。また、反対に平年値が大きい(=毎年の発生量が多い)病害虫では、「やや少」や「少」となっても、見かけ上の発生が多いと感ずることがあります。

3 半旬の扱い

発生予察情報で使用する「半旬」は暦日半旬で、5日間区切りの期間となります。第1半旬は1日から5日、第2半旬は6日から10日のように、以降第6半旬まで5日毎に該当する期間を示します。

なお、第6半旬だけは月の日数によって、5日間にならない場合があります。

より詳しい内容は、下記HPでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第2号の発行日は、4月28日(木)の予定です。

令和4年度 発生予察情報	発生予報第1号 ー水稻ー	令和4年4月8日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	-------------------------

ー6月までの水稻害虫の発生予報と防除のポイントー

巡回調査:4月5～7日

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
ヒメビウンカ	ー	やや多

予報の根拠

(1) 畦畔のすくい取り調査の結果、発生地点率は平年並、すくい取り虫数は平年よりやや多かった。

病害虫名	発生時期	発生量
ツマグロヨコバイ	ー	やや多

予報の根拠

(1) 畦畔のすくい取り調査の結果、発生地点率は平年より高く、すくい取り虫数は平年並であった。

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・箱施用剤を使用していない場合や、ヒメビウンカやツマグロヨコバイへの登録がない箱施用剤を使用している場合は、ほ場を注意して観察し、多発する前に防除を実施する。
- ・イネ科植物で増殖するため、畦畔や周辺草地の管理を徹底する。
- ・成虫は窒素過多の水田に集中しやすいため、肥培管理に注意する。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、IRAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

※IRACコード^{アイラック}:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。

(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

(2)ヒメビウンカ

- ・本虫はイネ縞葉枯病を媒介する。本病の主な感染時期は移植後から幼穂形成期までであり、発生後の防除は困難であることから、特に初期防除が重要である。よって、箱施用剤を使用した場合でも発生動向に注意し、発生状況に応じて防除を実施する。
- ・越冬世代のすくい取り調査では、県内全域で発生が認められ、発生量も平年と比較して多かった(平年比 148%)ことから、箱施用剤等による初期防除を徹底する。

(3)ツマグロヨコバイ

- ・出穂期前後に(第2世代による)吸汁害を受けると被害が大きくなるが、畦畔における越冬世代のすくい取り調査の結果、発生地点率が平年(13.2%)より高く(28.6%)、広域で発生が確認されたことから、今後の発生動向に注意する。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。特に、水田用除草剤や水田で粒剤を使用する場合は、止水に関する注意事項を確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

令和4年度 発生予察情報	発生予報第1号 ー麦類ー	令和4年4月8日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	-------------------------

ー4月下旬までの発生予報と防除のポイントー

作況調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:1か月予報は4月7日発表, 3か月予報は3月 25 日発表(仙台管区気象台)

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオムギ赤かび病	平年並	平年並

予報の根拠

- (1) 作況調査ほ「シュンライ」(10月中旬播種, 3月20日現在)の開花期は5月4日頃と予測され, 平年(5月1日)よりやや遅いと予測される(表1)。
- (2) 向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。
- (3) 開花期前後の降雨が発生に好適である。10月中旬播種大麦の開花期は5月上旬頃と予測され, 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
コムギ赤かび病	平年並	平年並

予報の根拠

- (1) 作況調査ほ「シラネコムギ」(10月中旬播種, 3月20日現在)の開花期は5月17日頃と予測され, 平年(5月14日)よりやや遅いと予測される(表1)。
- (2) 向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。
- (3) 開花期前後の降雨が発生に好適である。10月中旬播種小麦の開花期は5月中旬頃と予測され, 5月の降水量(3か月予報)はほぼ平年並と予報されている。

表1 出穂期・開花期の予測 (大崎市古川)

麦種	品種	出穂期(月/日)		開花期(月/日)	
		本年	平年	本年	平年
大麦	シュンライ	4/29	4/25	5/4	5/1
	ミノリムギ	5/2	4/28	5/7	5/4
小麦	シラネコムギ	5/7	5/4	5/17	5/14
	夏黄金	5/7	-	5/17	-

※ 令和3年播種(令和4年産)麦類作況試験生育状況(古川農試)[3月20日調査速報]参照

※ 平年値は過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値(「夏黄金」は平成28年播種より供試のため平年値なし)

※ 播種日:令和3年10月21日

2 防除のポイント

赤かび病

- ・赤かび病は開花期前後にかけて降雨が続くと発生が多くなる。
- ・薬剤防除の適期は、1回目が開花始期～開花期、2回目はその7～10日後である。生育状況をよく観察し、適期を逃さないよう防除を行う。
- ・薬剤耐性菌対策のため、FRAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
※FRAC コード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・「シラネコムギ」は開花期が早まるほど発病リスクが高まるので、適期を逃さないよう防除を行う。
※普及に移す技術第92号参考資料「小麦開花期とコムギ赤かび病発病リスクの関係」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20271/621903.pdf>
- ・「夏黄金」の薬剤防除は3回を基本とし、3回目は2回目の7～10日後に実施する。
- ・「ホワイトファイバー」は「シュンライ」より出穂期が1～2日遅いので、1回目の防除のタイミングに注意する。

<参考> 出穂期（出穂率 40～50%）から開花期に達するまでの日数の目安

日平均 気温(℃)	大 麦			小 麦		
	開花始	開花期	開花終期	開花始	開花期	開花終期
10	8	11	14	14	19	24
13	6	9	12	11	15	19
15	5	7	9	9	12	15
18	3	5	7	6	8	10

- ・普及に移す技術第83号参考資料「麦類の出穂期を基準とした開花期予測」参照
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20262/69869.pdf>
- ・大麦は「シュンライ」「ミノリムギ」、小麦は「シラネコムギ」に適用

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

ー開花直前～5月中旬の発生予報と防除のポイントー

巡回調査:3月2日, 10～11日, 14日

作況調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区気象台4月7日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	平年並	やや多

予報の根拠

- (1) 作況調査ほにおける「ふじ」の発芽期は、平年並である(表1)。
- (2) 前年の発生量が平年よりやや多かったことから、伝染源量は平年よりやや多いと推測される。
- (3) 向こう1か月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
リンゴハダニ	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査の結果、短果枝や芽基部の越冬卵数は平年並であったが、分岐部では確認されなかった。
- (2) 向こう1か月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。

表1 りんごの生育状況(名取市高館)

	発芽期(月/日)		展葉期(月/日)		開花始(月/日)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
ふじ	3/30	3/30	ー	4/10	ー	4/28

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・本年はりんごの生育が平年並に推移しているが、天候によっては生育が早まることもあるので、防除適期を逃さないよう注意する。
- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう雨の合間をみて防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は病害虫の発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・薬剤耐性菌対策のため、FRACコード*が同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。
エフラック

- ・DMI 剤 (FRAC コード:3), QoI 剤 (FRAC コード:11) 及び SDHI 剤 (FRAC コード:7) 並びにこれらの混合剤は, 耐性菌対策のため, それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため, IRAC コードが同じ薬剤の連用を避け, 計画的にローテーション散布を行う。
- ※^{アイラック}IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし, アルファベットまたは数字で表したもの。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・果樹の農薬使用回数は, 前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)斑点落葉病

- ・分生子の飛散が確認されていることから, 防除適期を逃さないよう注意する。
- ・落花期頃にチウラム剤を散布する。赤星病, 黒星病との同時防除を行う場合は, 目的の病害に登録のある DMI 剤又は DMI 混合剤を選択する。

(3)リンゴハダニ

- ・本種は短果枝の周辺や芽基部, 小枝の分岐部など, しわ状の木肌部分で卵越冬する。越冬卵量が多い園地では, 早期から寄生密度が高くなる傾向にあるので注意する。
- ・落花期は越冬卵から孵化した幼虫が出揃うので防除適期である。越冬卵の防除が不十分な場合は, この時期を狙って防除を行う。

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適用作物, 使用時期, 使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い, 適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には, 防除器具を点検し, 十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し, 周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し, 使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては, 最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

ー開花直前～5月中旬の発生予報と防除のポイントー

作況調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区气象台4月7日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	やや早い	平年並

予報の根拠

- (1) 作況調査ほにおける発芽期は平年に比べ「幸水」で1日、「豊水」で3日早い(表1)。
- (2) 前年の発生量が平年より少なかったことから、伝染源量は少ないと推測される。
- (3) 向こう1か月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。

表1 なしの生育状況(名取市高館)

	発芽期(月/日)		展葉期(月/日)		開花始(月/日)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
幸水	4/ 1	4/ 2	-	4/20	-	4/23
豊水	3/28	3/31	-	4/17	-	4/21



写真 芽基部病斑
※りん片が脱落しにくいので目印になる

2 防除のポイント

(1)黒星病

- ・本年は、なしの発芽期が平年に比べ「幸水」で1日、「豊水」で3日早く推移しており、また、罹病落葉からの子のう胞子の飛散も確認されていることから、防除適期を逃さないよう注意する。
- ・開花期前後は特に重要な防除時期である。開花直前から落花期頃に DMI 剤またはその混合剤を十分量散布し、10 日以上散布間隔をあけないようにする。
- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう雨の合間をみて防除を実施する。

- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
 - ・芽基部の黒色すす状の病斑(写真)は本病の一次伝染源となることから、園内をこまめに見回り見つけ次第摘み取って園外に持ち出すか、土中深く埋めるなど適切に処分し、伝染源量を抑える。
 - ・薬剤耐性菌対策のため、FRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。本県では現在までDMI剤(FRACコード*:3), QoI剤(FRACコード:11), SDHI剤(FRACコード:7)の耐性菌は確認されていないが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とする。
- ※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。
エフラック
 (参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp